8．第二日夜の部の報告：

桜井（東大理）は「金属中のspin 波」と題して、Hubbard 流の扱いによる3d-element の $\chi(q,\omega)$ の計算について述べた。

石川（東大教養）は、変位の4次迄の非調和項を考えて、カノニカル変換でフオノン振動数のずれと衝突項を求めてkinetic equationを得る「フオノンのquasi-harmonic theory」について論じた。

芳田（東大物理研）は8/31~9/6のモスクワ低温会議（LT10）の報告をした。4つの分科会H（ヘリウム）S（超伝導）M（金属）A（反強磁性）の中、主にS会場における、Gor'kor 等の一次元超伝導の話、Pd ではferromagnetic exchange interaction がphononを媒介とする引力に勝つために超伝導にならないというSchriefer 達の話、Redfield達による混合状態のVの核スピン緩和の測定がvortexの三角格子構造を示していること、Mathias のnew superconductorの話、その他を簡単に紹介した。いずれもProceding を待つ迄もなく、大部分は探せば既にあるいは近いうちに雑誌に出るであろうとのことである。

都築（京大理）はソヴイエトでは学部で今日的問題の学生実験がなされ、教授が一人の大学院学生を育て、大学院学生は研究者として扱われていることなど教育や研究者養成の問題等第5会場について補足した。

9時50分頃迄延張されたが、講演者にも質問討論にも時間を充分与えられなかつたのは残念である。　　（文責　京大理　小川）